

朔太郎没後75年。待望の東京公演！

生まれ故郷・前橋での圧倒的な幸田弘子朗読公演につづき、ついに東京でも「月に吠える」「青猫」、そして朔太郎が亡くなるまで暮らした世田谷・下北沢の昭和が、渋谷・桜坂の伝承ホールによみがえる！

「私はいつも都会をもとめる。都会のにぎやかな群集の中に居ることをもとめる」



【出演】

幸田弘子（朗読）
今井尋也（小鼓）
福島明佳（フルート）
中川哲雄（語り）

【脚本・舞台構成】川端博

【演出】川端博 今井尋也

【企画・監修】三善里沙子

【協力】田端文士村

【制作提携】Yプロジェクト

5月18日(木) 午後2時開演

5月18日(木) 午後7時開演 ※開場は30分前

渋谷区総合文化センター大和田・伝承ホール（渋谷駅徒歩4分）

チケット（全席自由）

前売り 3500円 当日 4000円 / 学生 2000円（要学生証提示）

予約・お問い合わせ

幸田弘子の会 (03) 5953-8310 (平日 9:00~18:00)

lisako.m@hotmail.co.jp



朔太郎の天才的な詩を長年朗読してきた幸田弘子が、前橋と同じく、小鼓の名手・今井尋也とともに繰り広げる東京初の、壮絶なパフォーマンス。さらに、フルートと物語屋の登場で、より深まった魅惑の、蠱惑の、誘惑の詩の世界。フランスにあこがれ、マンドリンを弾き、乱歩をこよなく愛したシティ・ボーイ朔太郎の真実とは。

「光る地面に竹が生え、青竹が生え、竹、竹、竹が生え、みよすべての罪はしるされたり」



萩原朔太郎（はぎわらさくたろう） 詩人

1886年、現在の前橋市千代田町で生まれた。小学校のころから孤独を好み、ハーモニカなどを一人楽しむ。

1913年、北原白秋の雑誌『朱鸞』に初めて五編の詩を発表。

室尾犀星を知り、生涯の友となる。東京と故郷・前橋など、各地を転々としながら活動。マンドリンを愛好。

1933年、世田谷区代田に自ら設計の自宅を新築。1942年、その自宅で死去。55歳。

代表作に、詩集『月に吠える』『青猫』『氷島』『純情小曲集』など。

幸田弘子（こうだひろこ） 朗読

東京生まれ。NHK東京放送劇団に入団、放送・舞台などで活躍。朝ドラの名作「雲のじゅうたん」の準主役や、舞台「オンディーヌ」のヒロインを演じる。1977年から毎年「幸田弘子の会」を開く。

以降、古典から現代まで、東西の幅広い名作を朗読。日本経済新聞で「朗読家ベストワン」に選出。

井上ひさしら、名作家たちが「幸田弘子を聴け！」と称賛しつづけてきた。

「読んでわからない古典や純文学ですら、幸田弘子が朗読すると心の底から理解・共感できる」というのが、その趣旨。

「舞台朗読」という新しい分野を確立した功績として、1981、82、84年と続けて芸術祭優秀賞を受賞。

84年度芸術選奨文部大臣賞受賞。95年毎日芸術賞、96年紫綬褒章、2003年旭日小綬章受賞。

朗読CD、DVDなど多数。著書に『朗読の楽しみ』（光文社）。朔太郎研究家でもある那珂太郎に師事した。

今井尋也（いまいじんや） 小鼓

前橋出身。国立能楽堂、東京芸大を経てフリーの小鼓演奏家として活躍中。

古典から現代音楽まで幅広い音楽性と迫力の肉声、美しい鼓の音色で小鼓の可能性を極限まで追求。

脚本家・演出家として活躍するほか、ジェローム・ベル等海外の演出家の舞台にも多数出演。

地方の歴史、民話、神話を題材にした新作能や市民ミュージカル等の脚本・演出・音楽も多数手掛けている。

朔太郎が通った前橋高校の遠い後輩に当たる。毎月2回誰でも参加できる小鼓教室を開催している。

福島明佳（ふくしままさやか） フルート

東京音楽大学附属高校を経て、東京音楽大学器楽部フルート科卒業。大学在学中、

大学推薦により米インディアナ州立大学音楽学部に短期留学。

また東京音楽大学学内選抜オーケストラメンバーとして、カーネギーホール、ケネディセンター等で演奏する。

大学卒業後は、国内外の音楽家と各地で共演を重ねている。

2008年より、フリーランスのフルート奏者として舞台朗読家の巨匠幸田弘子氏の舞台にて音楽サポートを務める。

スガナミミュージックサロン品川教室フルート科講師。

物語屋 中川哲雄（なかがわてつお） 語り

執筆や音楽活動などを経たあと、「口語り」の口承芸能に目覚め、2011年“物語屋”を開業。

地域に伝わるお話語り、個人のライフ・ストーリーや家族の思い出などの“ものがたり”づくり、

朗読や影絵、着物仕立て実演など異分野との多様なパフォーマンスの形を開拓。

2016年にオープンした木造平屋“仕立てとおはなし処Dozo”では寄席を開催し、落語や神話などを地域に届けている。

20017年春には『小金井桜物語』を制作・口演。

月に吠える」「青猫」「純情小曲集」「宿命」……代表的な詩集から、めぐるめぐコトバの博覧会を紡ぎ出す夢の夜。音楽が大好きな朔太郎の心はフルートに乗せて、あやかしの人物シルエットは物語屋のモノローグで…、詩が立ちあがる稀有なひと時をぜひ、ご一緒に。